



自然栽培パーティ その12

編集部=文
text by KOTONONE
岸本 剛=写真
photograph by Tsuyoshi Kishimoto

障害者、農業、カネ、 すべての価値を ひっくり返せ

みどりの里の農業には、障害者福祉施設のA型もB型や生活介護の施設もいる。新規就農者も参加している。栽培も販売も六次化も、手伝い、分け合っている。そこから、おカネだけではない、物々や労働交換による、新しい資本主義の姿も見えてくる。このすべてのメンバーが自然栽培パーティの会員であることが誇らしい。これを、農福連携だ。

林 剛さん
【新規就農者】
美岳小屋(屋号)の代表。三〇歳。二年前に消防士を退職し、新規就農を志す。おじさんが開拓した田や畑の後を継ぎ、自然栽培に切り替える。農業で地域の人のつながりを取り戻したいと語る。

野中慎吾さん
【農業生産法人みどりの里】代表
自然栽培一筋の農業法人。イチゴの自然栽培を成功させ、その顛末は『希望のイチゴ』の本で詳しく紹介された。地域の自然栽培農家との勉強会も運営。若きリーダーとして期待されている。

磯部竜太さん
【社会福祉法人無門福祉会】事務局長
自然栽培パーティの事務局も務める。野中さんから栽培指導を受けるだけでなく、野中さんとともに、障害者の働く場をつくる仕組みづくりに活動している。

近藤真人さん
【株式会社ストレートアライブ】代表
名古屋市長が本社。豊田市ではA型事業所「ものわ」を運営。どちらも精神障害者を雇用し、自然栽培の作物の栽培、販売を手掛ける。みんなの販売の中核的存在。

遠藤翼さん
【新規就農者】
種子の実態を知り、農業に目覚め、自然栽培の世界に踏み込む。ビジネスセンスを生かして、たのしい農業づくりに挑む。

